

安全データシート

改訂日:2020年4月30日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
会社名
住所
電話番号

フェノールレッド溶液(滴定用)
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
CB5020

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
健康に対する有害性

引火性液体: 区分3
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: 区分2B
発がん性: 1A
生殖毒性: 区分1A
特定標的臓器・全身毒性: 区分1(肝臓)
(反復暴露): 区分2(中枢神経系)

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性液体及び蒸気
眼刺激
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙
容器を密閉しておくこと。
容器を密閉すること。/アースをとること。
防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手などをよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
【応急処置】
皮膚又は髪に付着した場合、直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断/手当を受けること。
気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。
火災の場合、消火するために適切な消火剤を使用すること。
【保管】
容器を密閉して涼しい換気の良いところで施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学品・混合物の区別

化学品
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号(CAS RN)
濃度又は濃度範囲

混合物
フェノールレッド
C₁₉H₁₄O₅S
140-22-7
1g/L
エタノール
C₂H₅OH
64-17-5
190mL/L
水
H₂O
7732-18-5
残り

官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	(3)-2202	(2)-202	対象外
4. 応急措置			
吸入した場合		新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。	
皮膚に付着した場合		直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぎ取り去ること。 適温の緩やかな流水により、15分以上洗浄する。 皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求めること。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。	
眼に入った場合		コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。 水で数分間、注意深く洗うこと。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。	
飲み込んだ場合		気分が悪い時は医師を呼ぶこと。 口をすすぐこと。 吐かせないこと。	
急性症状及び遅発性症状 の最も重要な兆候症状		中枢神経系に影響を与えることがある。刺激、頭痛、疲労感、集中力欠如を生じることがある。妊娠中にエタノールを摂取すると、胎児に有害影響が及ぶことがある。長期にわたる摂取は肝硬変を引き起こすことがある。	
5. 火災時の措置			
適切な消火剤		小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤	
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性		棒状注水 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。	
特有の消火方法		散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。	
消火を行う者の保護		作業に際しては保護具を着用する。	
6. 漏出時の措置			
人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置		作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。	
環境に対する注意事項		密閉された場所に入る前に換気する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。	
封じ込め及び浄化の方法 及び機材		乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。清潔な帯電防止工具を用いる。	
7. 取扱い及び保管上の注意			
取扱い			
技術的対策		防爆の電気、換気、照明機器及び防爆用工具のみを使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。-禁煙。 適切な保護具を着用する。	
安全取扱い注意事項		静電気対策のために、装置、機器などの接地を確実に行う。 眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。 眠気又はめまい、呼吸器の刺激、器官の損傷のおそれがあるので、本製品に接触、吸入、飲み込みをしてはならない。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 取扱い後はよく手を洗うこと。 使用場所は換気のよい状態にすること。	
接触回避		高温物、スパーク、火気を避け、酸性物質、有機過酸化物質との接触を避ける。	
衛生対策		取り扱いは手を洗うこと。	
保管			
安全な保管条件		涼しく換気の良い場所で貯蔵すること。	

安全な容器包装材料	酸化剤から離して保管する。 直射日光及び高温、多湿を避けて密栓して保管する。 消防法に従った保管をすること。 ガラス
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度(出典)	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	取扱いについては、できるだけ密閉化を行うか、局所排気装置を使用する。作業場近くに手洗等の設備を設ける。
保護具	
呼吸用保護具	マスクを着用する。
手の保護具	ゴム手袋を着用する。
眼の保護具	ゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	作業着を着用する。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	液体
色	橙赤色
臭い	エタノール臭
pH	該当情報なし。
融点・凝固点	該当情報なし。
沸点、初留点及び沸騰範囲	該当情報なし。
引火点	エタノール濃度から23~60℃の範囲に入ると考えられる。 推算値: 31℃
蒸発速度	該当情報なし。
可燃性	該当情報なし。
燃焼又は爆発範囲の 蒸気圧	該当情報なし。
相対ガス密度	該当情報なし。
密度及び/又は相対密度	該当情報なし。
溶解度	該当情報なし。
n-オクタノール/水分配	該当情報なし。
自然発火温度	該当情報なし。
分解温度	該当情報なし。
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	通常の取り扱いに於て安定。
危険有害反応可能性	光により変質する。強酸化剤と激しく反応。
避けるべき条件	日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源
混触危険物質	該当情報なし。
危険有害な分解生成物	該当情報なし。
11. 有害性情報	
急性毒性	全ての成分は区分外又は分類できない。(分類できない)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	該当情報なし。
眼に対する重篤な損傷性	区分2Bの成分(エタノール)が10%以上である。(区分2B)
呼吸器感作性又は 生殖細胞変異原性	全ての成分は区分外又は分類できない。(分類できない)
発がん性	全ての成分は区分外又は分類できない。(分類できない)
生殖毒性	区分1Aの成分(エタノール)を0.1%以上含む。(区分1A)
特定標的臓器毒性	区分1Aの成分(エタノール)を0.3%以上含む。(区分1A)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分3の成分(エタノール)が20%をこえない。(区分外)
誤えん有害性	区分1の成分(エタノール)を1.0%以上含む。(区分1(肝臓)) 区分2の成分(エタノール)を1.0%以上含む。(区分2(中枢神経系))
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期(急性): [エタノールとして] 藻類(クロレラ)の96時間EC50 = 1000 mg/L (SIDS, 2005)、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 5463 mg/L (ECETOC TR 91 2003)、魚類(ニジマス)の96時間LC50 = 11200 ppm (SIDS, 2005)より、藻類、甲殻類及び魚類において100 mg/Lで急性毒性が報告されていないことから、区分外。

<p>長期 (慢性):</p> <p>残留性・分解性 生体蓄積性 土壤中の移動性 オゾン層への有害性</p>	<p>[エタノールとして] 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BODによる分解度: 89% (既存点検, 1993))、甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属の一種) の10日間NOEC = 9.6 mg/L (SIDS, 2005) であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、藻類、魚類ともに急性毒性が区分外相当であり、難水溶性ではない (miscible, ICSC, 2000) ことから、区分外となる。以上の結果から、区分外。</p> <p>該当情報なし。 該当情報なし。 該当情報なし。</p> <p>当該物質はモンリオール議定書の附属書に列記されていない。</p>
<p>13. 廃棄上の注意</p> <p>化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報</p>	<p>産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。</p>
<p>14. 輸送上の注意</p> <p>国連番号</p> <p>品名 (国連輸送名)</p> <p>国連分類</p> <p>容器等級</p> <p>特別安全対策</p> <p>国内規制がある場合の規制情報</p> <p>陸上輸送</p> <p>海上輸送</p> <p>航空輸送</p> <p>緊急時応急措置指針番号</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。</p> <p>消防法の規定に従う。 船舶安全法の規定に従う。 航空法の規定に従う。</p> <p>—</p>
<p>15. 適用法令</p> <p>化学物質管理促進法 毒物及び劇物取締法 労働安全衛生法</p> <p>消防法</p>	<p>指定化学物質に該当しない。 毒物及び劇物に該当しない。 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 (第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2) [エタノール] 危険物に該当しない。</p>
<p>16. その他の情報</p> <p>引用文献</p>	<p>職場の安全サイト (エタノールSDS) 16615の化学商品 (化学工業日報社) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針 (日本化学工業協会) 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム (化学工業日報社)</p> <p>記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。</p>